

村上における地域づくり活動（新潟県村上市） －行政に頼らない住民主導の町並みの保存とまちの活性化－

一般財団法人国土計画協会専務理事 太田 秀也

本コーナーでは、これまで地域づくり表彰（本協会HP特設サイト及び本誌2024年1月号参照）で表彰され活動が長く継続している事例について、キーパーソンへのインタビュー等を中心に過去4号にわたって紹介してきたところであるが、過日、新潟県村上市を訪れた際に、同地で様々な地域づくり活動を進めている吉川真嗣さん（村上町屋商人会、チーム黒堀プロジェクト、むらかみ町屋再生プロジェクト等の中心メンバー）にインタビューする機会を得たので、地域づくり表彰の事例ではないが、本号において紹介することとした。

1. 村上における地域づくり活動の概要

新潟県村上市は、新潟県の北端に位置し、村上城の城下町を中心に歴史的な町並みが残り、また地域固有の産業（塩引鮭、村上茶、村上牛等）が受け継がれている地域であり、2008年に旧5市町村（村上市、荒川町、神林村、朝日村、山北町）が合併し、新市「村上市」が誕生している。人口は57,418人（令和2年国勢調査）である。

吉川さんを中心とする村上における地域づくり活動は、下記2のインタビューで後述するように、行政における道路拡幅計画への対処として始まり、様々な取組が行われているが、主な取組は以下のとおりである。

- 「町屋の公開」（1998年～）
- 「町屋の人形さま巡り」（2000年～）
- 「町屋の屏風まつり」（2001年～）
- 「黒堀プロジェクト」（2002年～）
- 「町屋再生プロジェクト」（2004年～）
- 「空家再生」（2014年～）

2. インタビューの内容

2024年11月14日に吉川真嗣さんにインタビューを行うとともに、現地を案内いただいた。

インタビューの内容は以下のとおりである。



（写真は吉川さんより提供いただいた（以下同じ））

①取組のきっかけ

吉川さんが取組に関わることとなったきっかけ・経緯について教えてください。

私の家は村上で鮭の加工業を営んでいます。私は大学から東京に出て東京で勤めをしていましたが、家業を継ぐため村上に戻りました。その後しばらくたって、当家も含まれる村上市の中心の城下町・商店街において、土地区画整理事業による道路（県道）の拡幅の計画が行政により打ち出されました。その道路拡幅計画については、地域で反対する者がいませんでしたが、私が鮭販売のため東京の物産展に参加した際に、会津若松で町並み保存運動をされていた五十嵐大祐氏（全国町並み保存連盟会長（当時））から村上の町並みの保存の必要性を助言され、町並みの保存活動をスタートさせたことが始まりです。

地域づくりについては、以前から知識や経験があったのですか。

それまでは全く知識も経験もありませんでした。五十嵐氏を師と仰ぎ、会津に通い、マンツーマンで多くのことを教えて頂きました。更に時間を見つけては全国の歴史を活かしたまちづくりの現場に出かけ、地域のリーダー達に直接会って話を聞かせて頂き、大きな刺激を受けました。

②取組の経緯・ねらい・内容

様々な取組を行われていますが、各取組の経緯・ねらい・内容について教えてください。

最初は道路拡幅計画反対の署名運動をしましたが大きな賛同は得られませんでした。そこで反対ではなく、村上の古いもの、地域資源を活かして村上を活性化しようという取組に転換しました。

○「町屋の公開」(1998年～)

まず始めたのが「町屋の公開」です。このきっかけは、私の店に(天井からぶら下げられている)鮭を見に来られた方が、神棚や仏壇、囲炉裏のある茶の間を見て、「いいな、いいな」と言っていってしまったことで、気づけなかった村上の魅力に気づくことができました。その後、町屋の内部の生活空間を公開する取組を始めました。このため、一軒一軒訪ねて、公開に協力してくれる家を募り、手書きの観光マップ(「村上絵図」)を作成して配布しました。

そうしたら、それまで観光客がゼロだった町にマップを持って歩く人の姿がパラパラと見られるようになりました。この1枚のマップが村上を大きく変えていく力になったのです。

○「町屋の人形さま巡り」(2000年～)

「町屋の屏風まつり」(2001年～)

そこで、もっと町屋に光を当てようと始めたのが春に行っている「町屋の人形さま巡り」です。各家に伝わる雛人形、武者人形等の人形さまを町屋の生活空間に飾り、無料で一軒一軒見学して巡ってもらう取組です。60軒の町屋の賛同を得られ、テレビ、ラジオ、新聞等にPRを行い、NHKの「日曜美術館」でも紹介され、初回から3万人以上の方が訪れました。回数を重ねる毎に5万人、7万人と増えていきました。

春の人形さま巡りに続き、秋には「町屋の屏風まつり」を開催しています。

○「黒塀プロジェクト」(2002年～)

このようなイベントによるまちおこし活動を進めましたが、行政の道路拡幅計画は止まりませんでした。そこで、「壊す行政、つくる市民」とスローガンを掲げ(笑)、村上のあるべき姿を形に示していこうと、活動を景観まちづくりに発展させました。まず始めたのが、ブロック塀が多かった城下町の小路を昔ながらの風情ある黒板塀の景観に戻す「黒塀プロジェクト」です。

ブロック塀は壊さず、その上に木の板を打ちつけ黒く塗ることで、表向き黒塀に変えるもので「黒塀一枚1000円運動」と銘打って資金を集め、有志の市民の手作りで黒塀作りを始めた。

これまで、1600万円以上の寄付を受け現在460mの黒塀が完成しています。少ない費用で大きな変化が生まれた取組です。



○「町屋再生プロジェクト」(2004年～)

続いて、サッシやトタン、アーケード等であった町屋の外観を、格子窓や下見板の木の外壁、木製のガラス戸等の昔ながらの町屋の形に再生し風格のある町並みを作る「町屋再生プロジェクト」を始めました。

そのため、全国の人に呼びかけ、年間1千万円(10年間で1億円)の寄付を募る目標で町屋の外観再生基金をつくり、外観を再生する店に1軒あたり80万円の補助金を出す仕組みをつくりました。

できるだけ歴史的考証にそった村上らしい再生を行うことを基本とし、(財)日本ナショナルトラストの調査をベースに再生計画を立て、町屋の所有者に提案・協議をして進めています。



○「空家再生」(2014年～)

その後、空店舗が増えてきた状況を踏まえ、外観再生だけでなく、空家への入居を促進する

ため、プラス20
万円で100万円
の補助を行う
「空家再生」に
も取り組んでい
ます。



これまで約6400万円が集まり、「町屋再生プロジェクト」、「空家再生」あわせて71軒の再生ができています。

このような取組の結果、町屋再生が45軒くらいまで進んだ時点で、行政の道路拡幅計画が中止になり、歴史を活かしたまちづくりに転換するという結果につながりました。

③取組の特徴

取組の特徴と考える点（アピール点など）はどのようなものですか。

第一に、地域の眠れる価値に光を当て、磨きをかけて、新しい輝き、価値を生み出すことです。村上には、蔵の町のような立派な建物はなく、当時の建物もサッシ、トタン等の殺風景な外観でした。そこで、まず生活空間である町屋の内部の価値に着目して、人形や屏風を展示して公開しました。続けて、城下町の歴史的景観を再生させるよう、町屋の外観の再生、町屋の利用の再生を進めました。

第二には、行政に頼らず、アイデアを出し、地域の関係者の力を結集して、大きな費用をかけず取組を進めていることです。例えば、黒塀プロジェクトでは、ブロック塀の上に木板を張り黒く塗る、その作業を有志で行うという工夫で取組を行っています。町屋再生プロジェクトでは、今でいうクラウドファンディングのような方法で、必要な資金を広く募りました。黒塀の通りには2019年より募金箱をおいて寄付（寄付いただいた方の氏名を木札で掲示）を募っています。



（写真は筆者撮影）

また町屋再生も、外観だけなので低経費で済む一方、町並みの趣きは大きく変わります。

財源を増やす取組は検討しましたか。

いろんな手段でお金を集める努力はしましたが、ユニークな取組だと支援してくださる団体が現れたり、頑張れと大金を出していただく人も現れ、不思議と困らずやってきました。

④取組の効果（地域への効果など）

取組の効果はどのようなものがありますか。

やはり町並みが昔ながらの村上の城下町の歴史的景観に変わってきたことです。これによって、村上を訪れる人も増え、まちに賑わいがでてきた効果もあります。

加えて、取組の成果が見えることで、地域の関係者の気持ちも変化し、地域づくりの輪が広がってきています。

さらに、当初目的としていた行政の都市計画・まちづくりの姿勢・方向性が転換したことも大きな効果だと思います。

⑤取組が継続している要因

活動開始から25年を超えますが、取組が長く継続している要因はどのようなものだと考えられますか。

様々な取組を行ってきましたが、その取組の成果が目に見える形で現れました。それが励みとなり私共当事者のやる気が持続し向上しました。そして関係者の協力の輪が広がったことが挙げられます。

また、当初から行政に頼らず、大きな費用をかけず、住民等の寄付・労力の協力を得て、持続可能な仕組みを作り、市民主導で取組を進めてきました。他の取組事例でみられるような最近の行政の財政制約による支援縮小といった影響もなかったこともあると思います。

⑥取組の中で生じた課題、その解決方法

取組の中で生じた課題があれば、その解決方法もあわせて教えてください。

黒塀作りなどは当初賛同が得られない人もいましたが、取組の成果が出てくるにつれ、次第に活動に賛同いただく関係者が増えていきました。

また行政の理解が得られず、まちづくりの姿勢が変わらないことが長く続きましたが、町に観光客が訪れるようになり、町並みが変化していく中で、180度方向が変わり、町並み保存の政策への転換が図られました。

⑦取組の今後の展望（新たな事業展開など）

今後のめざす方向や新たな事業展開の構想があれば教えてください。

町並みの保存の担保を高めるため、民間としても、重要伝統的建造物群保存地区の指定に協力して実現させたいと考えています。

加えて、空店舗に利用者を探して、新しい魅力ある店舗に変え、町のコンテンツをアップさせていこうと考えています。

⑧地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイス

これまでの取組を踏まえ、地域づくりを行う団体への取組のヒント等となるアドバイスがあれば教えてください。

大勢で議論を重ねるのではなく、よいと思ったことを、まずは小人数で実行し、結果を出すことが大切です。その成果が賛同をよび、次のステップにつながっていくからです。

3. まとめと若干のコメント

以下、村上における地域づくり活動の特徴・ポイントと思われる点をまとめるとともに、若干のコメントをしたい。

(1) 取組の特徴・ポイント

本誌2024年1月号50項以下において、「地域づくり表彰の表彰事例の整理・分析」として、これまでの地域づくりの取組事例を整理・分析したが、その内容も踏まえてみると、以下のような特徴・ポイントが挙げられる。

①取組の位置づけ

取組の主たる目的が歴史的町並みの保存という「地域活動」であるが、地域外の者の集客、商店街活性化のための「事業活動」の側面も有する取組である。

活動のきっかけ・経緯としては、歴史的町並みが失われる開発計画に対処するという「特定の地域課題の解決」のタイプの取組である。

②取組の特徴

本取組は、行政に頼らず、市民の資金・労力により、少ない費用で地域づくりを進め、町並み保存の成果をあげ、行政の政策転換にもつながるような取組として注目される。

③取組の継続性・展開性

本取組では、30年近くにわたり、様々な取組が

講じられ、取組の継続性が見られる。

また、i) ソフト面のまちおこしのイベントから、ハード面のまちづくりへ、ii) 町屋の中から外へ、iii) 町屋の外観向上から町屋の再生（空家活用）へ、という取組の発展性が見られる。

付け加えると、吉川さんは、「にいがた庭園街道ネットワーク」（新潟県に残された日本庭園、豪農等の伝統建築、国道290号線沿線の里山・棚田等の原風景や温泉を繋ぐ街道をコンセプトとした広域観光振興を行う団体）の代表として、村上に限らず、新潟県全体の魅力度向上・地域振興のための取組も行っておられる（なお、この「にいがた庭園街道」の取組には、当協会の「高速道路利用・観光・地域振興プラン」の支援を行っている）。

(2) 若干のコメント

本取組は、行政に頼らず、市民の資金・労力、様々なアイデアにより、大きな費用をかけず地域づくり・地域活性化を進め、行政の政策転換も促した取組として注目される。

活動の中心人物である吉川さんは、地域づくりについては全く知識も経験もなかったが、全国のまちづくりを見て学び、各地のリーダーより大きな刺激を受けた。その学びをもとに、現場の課題や状況を見極めて、取組の発想・アイデアを創発し、周りの関係者との協働により、様々な取組を継続して行っている点が参考となる。なによりも、地域への愛情、地域の歴史・伝統への愛着が重要であるということが再認識できる。

当初から行政に頼らず、大きな費用をかけず、住民等の寄付・労力の協力を得て市民主導で取組を進めてきたことも、取組が長く継続している要因の一つとも考えられる。

課題のような点は特段見当たらないが、敢えてあげるすると、活動の自主性を確保しながらも、（行政の姿勢・状況もあり難しい面もあると思われるが）行政との連携も深め、ウイン・ウインの関係（例えば指定管理等行政機能の補完活動による活動の範囲拡大・財源確保と行政サービス向上・地域効果の発揮等）が構築できることが望ましいのではないかと考えられる。

※本稿の内容は、筆者の見解であり、筆者の属する組織としての意見ではないことを申し添える。